

# らびプラス



芝の家は、子どもや母親、地元の高齢者が、互いに見守る場でもある

近頃のマンションに住む金沢美子さん(33)は、1歳の息子とよく訪れる。話し相手は、70代を迎えた人生の大先輩や学生たち。子育て中でも大人の会話がで

6月末の午後3時。芝の家(芝の緑側)の通りがかりのおじいさんが腰掛け、室内で遊ぶ幼児に声をかけた。帰宅途中の小学生が窓からのぞきこみ「後で来るね」と元気に立ち去った。中に入ると、駄菓子屋のケースや100円のドリンクコーナー。利用者は思い思いにく

## 世代超え雑談

国勢調査で単身世帯が初めて3割を突破、家族のありようが大きく変わるなか、地域社会のきずなが見直されている。きずなづくりのきっかけとなるのが、住民が気軽に立ち寄り交流する場の存在だ。「地域の茶の間」などと呼ばれ、自治体なども後押しする。高齢者も、子育て世帯も、近所に顔なじみがいれば安心だ。多世代が集う場をつくる団体に運営のヒントを探った。

## 気軽に立ち寄り、おしゃべり

3月の東日本大震災直後には、利用者が芝の家に集まってきた。近くに住む小菅美代子さん(74)は「ここにきて安心した。いざというとき支え合おうかな」といって支え合おうかなという気持ちで来ているのだ。地域住民が交流する場は、地域の茶の間「コミュニティカフェ」などと呼ばれる。運営主体は特定非営

「お弁当を食べても子どもと遊んでもいい。どの年代の人も、好きに過ごしてほしい」と運営責任者で慶応大特任講師の坂倉杏介さん。自然に地域活動を行うグループが誕生。地域の祭りが立ち上がり、町緑化や防犯見回りなどが動き始めている。

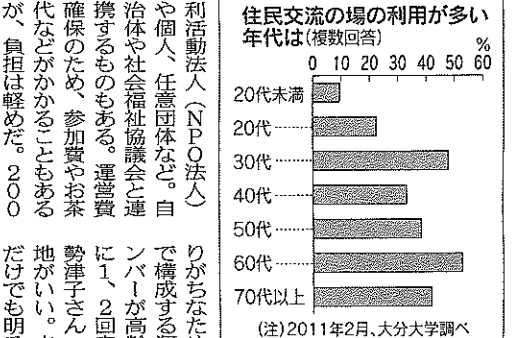
# 住民交流の場 広がる

東日本大震災の被災地の仮設住宅でも、コミュニティ形成の支援として交流の場を設ける動きが出てきた。

## 被災地でも試み

6月24日、宮城県山元町の仮設住宅通路に、緑のパラソルがはためいた。名付けて「パラソル喫茶」。NPO法人市民福祉団体全国協議会などによるプロジェクトで、5月から1、2回のペースで被災地が開いてい

る。運営主体は特定非営利活動法人(NPO法人)や個人、任意団体など。自治体や社会福祉協議会と連携するものもある。運営費確保のため、参加費やお茶代などがかかることもあるが、負担は軽めだ。2009年には「コミュニティカフェ全国連絡会」が発足、全国に広がりにつつある。



ただ、運営は楽ではない。「芝の家」や「落合三世代交流サロン」のように自治体が運営費を担うケースもあるが、大分大学の調査では、補助金を受けているところを含め約4割が赤字だ。ソフト面での支援に力を入れる自治体もある。東京都世田谷区の場合、財団法

つながらるのが、多世代交流型だ。東京都新宿区の公共施設で市民団体が運営する「落合三世交代交流サロン」。子育て世代中心とな

## 「地域力」再生へ、自治体も後押し

赤字が半分近く。ただ、運営は楽ではない。「芝の家」や「落合三世代交流サロン」のように自治体が運営費を担うケースもあるが、大分大学の調査では、補助金を受けているところを含め約4割が赤字だ。ソフト面での支援に力を入れる自治体もある。東京都世田谷区の場合、財団法

人世田谷トラストまちづくりを通じ、空き家や自宅を開放するオーナーに対してコンサルティングや専門家派遣を行う。そのひとつが「岡さんのいえTOMO」。オーナーの小池良実さんが、自宅の英語やピアノを教えた大叔母の遺志を継ぎたいと、築70年の二戸建てで毎週水曜にカフェを開く。玄関先で笑顔で迎える「見守り隊」は、財団で研修を受けたシニア男性のボランティア。子どもも工作を教えたり、緑豊かな庭の手入れをしたりと活躍。の手入れをしたりと活躍。の手入れをしたりと活躍。

野 勇さん

人間発見

国際囲碁連盟理事にペア碁部門から選出

滝 裕子氏

フォーカス

教授から転じ普及に情熱

公益財団法人日本ペア碁協会(東京都十代田区)常務理事の滝裕子さんが5月、世界約70カ国が加盟する囲碁の国際組織、国際囲碁連盟(IGF)の理事に就任した。ペア碁部門からIGFの理事が選ばれるのは初めて。世界的なペア碁の認知度の高まりに応じた格好だ。

ペア碁は囲碁を楽しむ人、特に女性ファンを増やすと考案された日本生まれの囲碁。規則は囲碁と同じだが、男女2人が1組となって相手ペアと対戦し、4人で碁盤を囲む。相棒との相談は欠かせない。

「ペア碁は囲碁を楽しむ人、特に女性ファンを増やすと考案された日本生まれの囲碁。規則は囲碁と同じだが、男女2人が1組となって相手ペアと対戦し、4人で碁盤を囲む。相棒との相談は欠かせない。」

「ペア碁は囲碁を楽しむ人、特に女性ファンを増やすと考案された日本生まれの囲碁。規則は囲碁と同じだが、男女2人が1組となって相手ペアと対戦し、4人で碁盤を囲む。相棒との相談は欠かせない。」